

「自ら学ぶ」どう実現

20年度以降順次実施「アクティブ・ラーニング」

改定中の次期学習指導要領では、児童生徒が討論の発表を通して積極的に授業に参加し、課題を解決する力を育むための「アクティブ・ラーニング」を盛り込む方針だ。改定の柱とされ、2020年度以降、小中学校から順次全面実施されるが、どんな授業になるのだろうか。13年度から効果的なアクティブ・ラーニングの在り方を探ってきた新潟大付属新潟中(新潟市中央区)が、全国の教育関係者を集めて10月に行った研究発表会で、その一端に触れた。

(報道部・本多茜)



ホワイトボードを活用しながら、英語で討論する生徒たち＝新潟市中央区

「鳥屋野瀬がいいと思う理由は二つ。彼の母親は自然が好きだと聞いたから。それに鳥屋野瀬ではきれいな景色が楽しめる」

「この意見について、どう思いますか」。司会役がさらに問いかけた。

討論する2人は、書記役が議論の要点を英語で書き留めたホワイトボードを見ながら、「鳥屋野瀬は確かにいい。でも秋は寒そう」など議論を重ねた。こうした作業を4回繰り返し、各自がすべての役回りを担って、50分の授業を終えた。

終了後、教員約30人が授業を振り返る協議会に参加した。上村教諭は授業の主な目標は、関係代名詞の習得と討論力の育成だったと説明した。「新潟観光の提案」という作業の中で目標

新潟大付属新潟中の研究発表に参加した県内外の教員からは、「子どもたちが促す授業は今も心掛けていく使いこなしていた。良い生き生きとした授業」などと、アクティブ・ラーニングの意義を評価する声が多く相次いだ。ただ、アクティブ・ラーニングは学年やクラス、子どもの習熟状況などに応じてさまざまな授業展開が想定され、取り組みに正解はない。「効果的な授業には、事前に相当な準備が必要になりそう」と頭を抱える人もいた。

県内外から参加の教員 相当な準備が必要

導入に期待と戸惑い

新潟市内の中学の男性教諭(37)は「主体的な学びを、書くなどの技能をうまく積極的に討論に参加し、課題を解決していくような状況を作り出せるだろうか」と運営面で懸念もある。「準備で教員の負担が増えそう。部活動の指導と両立は厳しい」など、作業量に対する不安の声も聞かれた。

新潟市中央区の男性教諭(24)は「いろいろな授業を試したいが、現場は前例踏襲の部分もある。どこまで新しい挑戦ができるか未知数だ」と述べた。

英語 班に分かれ積極討論 身近な題材、自分の言葉で

新大付属中で授業公開

「米国から来日するA.L.役、討論する2人、書記(外国語指導助手)の両役になり、制限時間7分で親に新潟観光のコースを提案しよう」。3年2組の英語の授業で上村教諭が、橋に行くこと「水の都」の授業で上村教諭が、橋に行くこと「水の都」が呼び掛けた。生徒は「新大」が感じられるから、4人1組の班に分かれ、司「あなたはどですか」

を達成できるよう、授業を先立ち、さまざまな工夫を凝らしたという。

例えば、同校が使う教科書では、関係代名詞をモデルの移動式住居「ゲル」の紹介文を通して学ぶ。上

村教諭はゲルをA.L.T.の出身地の観光名所に換えた文章を、授業用に作成した。教科書の表現や文法を用い、生徒がイメージしやすい題材とする狙いだ。

この文章などを参考に、新潟の観光地を紹介する表現を考えさせた。生徒たちは「which」などの関係代名詞を使うこと、表現の幅を広げることに注力したほか、観光地を紹介する単語や表現を書き、読み、話し、聞く力を養った。

協議会の教員からは「要点をホワイトボードに手早くまとめる能力は、日々の積み重ねの成果だ」と、身近な題材にしたことで、活発な討論が可能になったなどの意見が出た。

授業展開などをアドバイザーとしてきた新潟市総合教育センターの内藤浩治指導主事(45)は「生徒は言いよどむ場面もあったが、自分の中から言葉を絞り出していたのは、とても大事なことで」と評価した。

数学

折り紙で試行錯誤 折紙で試行錯誤 折紙で試行錯誤 折紙で試行錯誤 折紙で試行錯誤

2年1組の数学では、熊谷教諭が生徒に折り紙を配布。折り方を指定し、正三角形に見える三角形を作らせた。これが本当に正三角形だと証明するの

「あつ、そうか」

ひらめいた生徒が、理解できていない生徒に説明する。熊谷教諭は教室をくまなく歩いて話し合いの状況を確認し、アドバイザーする。時折、順調に証明が進む班のメンバーに「みんなに説明して」と声を掛け、黒板前で説明させた。

「このように折ると、三辺の長さが同じ三角形ができます。ここまで分かりませんか」

「三辺の長さが同じ三角形は正三角形と言えますよ。だから、この角は60度だと言えます」

聞く側を納得させるように手順を繰り返して、生徒たちは証明を完成させた。

見学した新潟市東区東石山の中沢啓介教諭(38)は「アイデアが浮かばない子どもに、先生が上手にヒントを与えていた。自分で解けたという自信が伝わってきた」と印象を語った。

取材メモ

教員の環境 早期整備を

アクティブ・ラーニングは特定の型がなく、教員の創意工夫が必要とされる。これまでも生徒の学ぶ意欲を引き出すため、教員は授業に工夫を凝らしてきた。結果責任で、褒められるのも批判されるのも現場。教員のプレッシャーは大きいだろう。国は研修の機会を増やしたり、授業に臨む教員が前向きに環境を整えるべきだ。